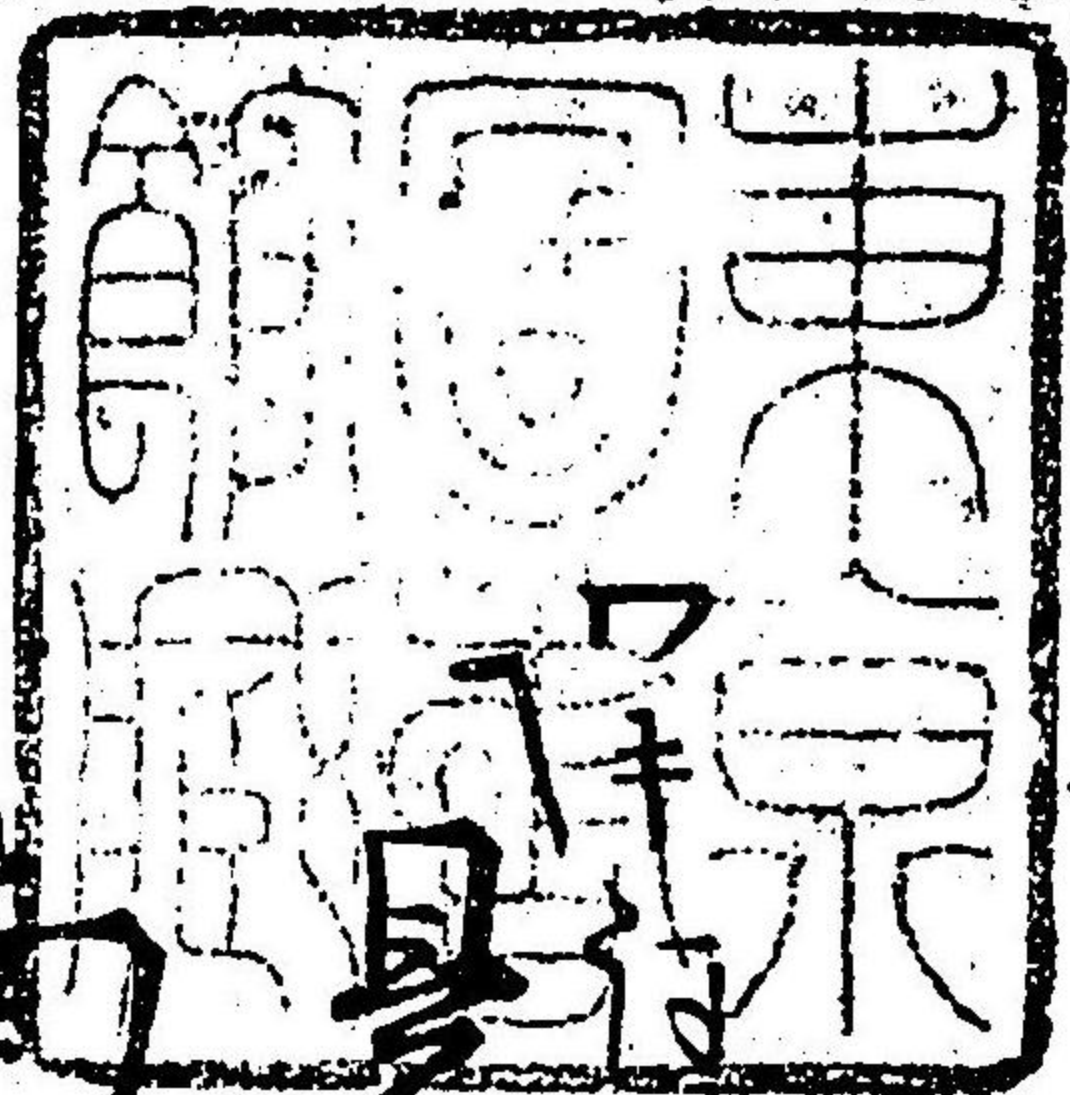


特 42
459

井筒
乙

東京圖書館				
一 冊	四 號	四 架	二 函	音 樂 類
				和書門



井岡

是ハ諸國一見の僧あり我此道ハ

南都七堂よありて人又見たり

初瀬よまのつらやと名は是成寺を

人よ事くくハ在愿寺とわかやん

程よまよと一見せりやと思ふせん扱ハ

此在原寺ハいし人業平紀乃有常

井岡

息女夫婦住給ひのり
 ありては興津自良と
 山と詠まきしめ
 音終乃終る其業平乃
 友とぎと紀乃方常一
 妹背を多く吊るく
 乃ありの状く月も物も

ばあまたよおの勝ま秋乃
 人うまわあ古寺の庵乃松乃更
 子と目もは打端の
 多やと及むあまの
 中なきてあまの
 出乃人よとあまの
 なく一筋よ頼や乃清手の糸通

あまのりふりしるにまはる思はれまはるよ
 うの葉のふりてきりてはるる
 たのふりてきりてはるるありき
 昔
 此國は人の有きるに客とありて
 門のありてはるるにありてはるる
 かしこにてたうひよ影を水鏡面にあ
 らぬとありてはるるにありてはるる

目もあまのりふりしるにまはる思はれまはるよ
 まよふふりてはるるにありてはるる
 乃露の玉草のふりてはるるにありてはるる
 まつ井崗のふりてはるるにありてはるる
 あまのりふりしるにまはる思はれまはるよ
 まよふふりてはるるにありてはるる
 わきあまのりふりしるにまはる思はれまはるよ

あへていふに讀み及あれはづ
井筒の中へおぼしきさうり常一は娘
乃古よりある一ウツもあつた
物語のあはれなる程のあやしや名
乗せりませ 誠の秋を徳とすも
紀乃有常の娘と云ふは白波の田
山よりよかきとて舞のたに

まや依き孰田のあやしや紅雲の方
紀乃有常の娘と云ふは又井筒の
女もあつた神ありと云ふ
や志の繩乃あつた春を舞う年つ
井筒のついでに影はあつた
更のや在原寺乃より月く
昔をむの夜に夢あつて

井筒
松音のむらりよ降りよきるく
原陸
判りあつらうちよ社たてては櫻花
年よまればあま人もまをみるうらよ
後も秋あれ人侍ももらけ
あり秋つ井筒の音よらまゆの規
弓率よ入て今らあま命よ政事平れ
筐のあまもあまもわてならうも昔

男よつる舞
地
あまのあまのたの

上母
舞
家よまゆ昔そまの在原の
上地
お寺井

よまあまの月そあまの
下女
月也

あまのあまの昔と詠りも行のほろ
下下
也

あつ井筒
地
あまのあまの井筒の
下女
も

あまのあまのたま
地
あまのあまの
下女
も

あまのあまの
地
あまのあまの
下女
も

此冠ありては女たるに似たり業
多平乃面影下女もあつても我あり
 うちのりも花婿りくまへの笑ひ
 りる花の色あつて匂ひのくはる
元の寺の鐘もほのく月まはる寺
 の松月やまをけたる聲もゆる
 醒もきのりあひあまきよなる也

右之本者觀世太夫織部
 章句真本令放行畢

正徳六丙申歲弥生

天保十一庚子歲孟春改正再板

皇都二条通御幸町西江入町

山本長兵衛



明治十七年三月六日翻刻御届
同年四月十二日別製本御届

定價四錢

翻刻人

京都府平民

寺田熊



下京區第五組麩屋町

錦小路五梅屋町十三番戶

